



津山市城西まちづくり協議会 会長 高須 昌明さん（小田中）

平成10年の台風10号による浸水で大きな被害を受けるなど、防災に対する意識が高かった城西地区は、平成28年度、国の呼び掛けに応じ、地区防災計画（地域の特徴に合わせ、災害時の住民の役割や避難行動などを定めた計画）の作成を開始。令和元年度に県の地区防災計画作成のモデル地区に選ばれ、県内で初めて計画を完成させた。



▲各世帯に配布するため、重要な部分をまとめた計画の概要版



▲2月撮影
▲月1回行われる防災防犯部会の様子



計画が完成するまでにどんな取り組みをされましたか？

城西地区には、15の町内会があり、川に近く浸水に注意が必要な地区と、山側で土砂災害に注意が必要な地区の2つに分かれます。それぞれの地区で課題が異なるため、町内会長、青年団、老人会、愛育・民生委員、消防団など、地域の人に幅広く呼び掛け、意見を交換しました。

その後、約30人で組織する防災防犯部会を立ち上げ、防災訓練の結果などを踏まえながら、協議を重ねました。

計画に載せている防災ハザードマップは、それぞれの地域を歩き、避難所までの道のりや危険箇所などを確認して作成しました。

城西地区の計画の特徴は？

地域の防災力を高めるには、「自助」と「共助」が重要です。計画では、避難所の備蓄品などに頼らず、最低3日分の水と食料を準備しておくなど、自分の身は自分で守る「自助」の大切さを強調しました。また、城西地区はイベントの開催などを通じて地域のつながりが強いので、身近な近所で早めに声を掛けて助け合う「近助（共助）」を呼びかけています。

避難所は、わたしたち住民が運営するため、運営者自身も避難者の一人です。避難所は助けてくれるところだけでなく、住民同士が協力して助け合う場であることを、避難所での約束事として計画に載せました。

今後の課題は？

計画は策定して終わりではありません。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、避難所での感染症予防対策の必要性を認識しました。訓練などを行うと、電力の確保、避難者の車の誘導、ペットの居場所など、新たな課題がどんどん出てきます。今後も、さまざまな世代を巻き込み、みんなで自由に意見を出し合い、実効性のある計画にしていきたいです。



雨の季節に備え、新しい傘を購入しました。逆さ傘という、閉じると濡れた面が内側になり、周りを濡らさない優れたものです。可愛い絵柄を選んだので、雨でも楽しく過ごせそうです。4月から編集室に仲間入りしました。先輩からさまざまなことを学んで、成長していきたいと思えます。よろしくお願いします。(つぶき)

「人生には3つの坂がある。上り坂、下り坂、そして『まさか』今月の津山人の取材で印象に残った言葉です。豪雨、感染症など、まさかこんなことになるなんてということが続いています。少しでも早く日常に戻るように祈るとともに、自分は大丈夫という過信は捨て、普段からの備えを心掛けたいです。(つぶき)

防災特集の記事で登場した神田敬三さん。インタビュー中、いつも持ち歩く非常持出品と非常備蓄品を見せてくれました。その中で意外に感じたのがトランプです。ゲームなどの娯楽は、落ち込んだ気持ちを紛らし、前向きにしてくれるそうです。車のアクセルペダルと同じで「遊び」は大切だと知りました。(つぶき)